

## 潭北亭

茶室の潭北亭は、海外も含めて幅広く陶芸の研究を行った有名な陶芸家の2代目真清水蔵六（1861～1936年）によって西芳寺に寄贈された。この独創的な茶室の楕円形の襖の引き手や礎石は陶器でできており、蔵六の影響を見ることができる。茶室は夢窓国師の時代にさかのぼるが、1928年に現在の場所に復元された。

潭北亭と湘南亭ともう一つの茶室が特別名勝に指定されており、建設の年代は異なるものの、潭北亭と湘南亭のどちらも12世紀の中国の禅書『碧巖録』からその名がつけられている。